

# 宇部市内での発掘調査

やまはく×埋文センター

「ほっとやまはく」  
タイム④



た。調査を始めると、早態でした。早速、いくつ々に基壇上面近くで火葬の泥が付着していた小骨が入った陶器の甕（かめ）が出土し、ここが墓と、墨字で「仏」「法」「世」「衆」「尊」など、一つの石に一字の漢字が書かれたものを確認、本遺構が「一字一石経塚」と呼ばれる経塚の一種であることが分かりました。

もなんと約6万8千個にものほり、全国でもまれな数量ということで驚きました。当時、新聞にも取り上げられて大きな話題になりました。なお、本経文は法華三部経の妙法蓮華経を中心に書かれたものと判明し、また本経塚が当時の僧や多くの民衆たちの厚い信仰心の下、被葬者への供養・現世利益の願いを込めて造られた時期が江戸時代初め頃と推定され、出土人骨の鑑定結果からも南嶺和尚の墓とは言い難く、新たな疑問も残りま

宇部市内には遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が現在108カ所あります。その中には私が発掘調査に携わった遺跡もあり、その二つを紹介します。一つは、厚東棚井にある中世前半に長門守護として活躍した厚東氏の菩提（ぼだい）寺、安国東隆寺に存在する開山の祖（伝）南嶺和尚の墓の調査です。



（伝）南嶺和尚の墓



一字一石経石

果、中世の土師（はじ）器や瓦質土器の他、1万年以上前の旧石器時代の石器も出土し、遺跡の存在が明らかになりました。その後本構内では諸工事に伴い随時、調査が行われており、これまでに縄文土器や弥生土器、須恵器、陶磁器、石器などの各時代の遺物が見つかっています。

今のところ、中世以前の住居跡や柱穴などの生活の痕跡は検出されておらず、古い時代の遺物は周辺の丘陵部付近からの流れ込みとみられています。ただし、旧海岸線を知る手掛かりになる漁具の石錘（せきすい）やハマグリなどの二枚貝を含ま

もう一つは、83年に小串にある山口大医学部および付属病院の敷地内で遺跡を発見した調査です。その場所は真締川沿いの低地の市街地であり、今でも市民の中でここに遺跡があると知る人は数少ないと思われます。山口大の関連施設は県内各地に分散していま

すが、大学では各構内で土地掘削を伴う土木工事などに際しては文化財保護法に基づき、事前の埋蔵文化財調査を行っています。小串キャンパス構内はそれまで遺跡の有無が不明でしたが、体育館新築工事に際して初めて試掘を実施しました。その結

森田孝一（県埋蔵文化財センター前調査第一課長）  
▽次回は16日です。



山口大医学部（上）と同付属病院

山口県立山口博物館  
TEL083-922-0294

月曜休館（祝日の場合は翌日）。  
最新情報はホームページで

